

令和4年度 学校評価総括表 (徳島県立板野支援学校)

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
1 安心安全な学校づくり ・避難訓練等の防災教育や環境整備の推進(総務課)	防災教育を中心とした危機管理体制の見直しを図り、安全意識や命を守る行動をとる意識の向上に務める。	①地震・火災・洪水による避難訓練を、実際に起こったときの場面を想定して実施する 年度末にアンケートを実施し、危機管理意識が高まったと回答する教職員が、8割を超えるようにする。	<アンケートの結果> ①危機管理意識が 「とても高まった」という教職員が 22.33% 「ある程度高まった」 ” 75.73% 合わせて98%を超えた。 ②安全意識が 「とても高まった」という教職員が 25.24% 「ある程度高まった」 ” 72.82% 合わせて98%を超えた。	(評定) B (所見) ・避難訓練は、3回とも実施できた。 ・避難場所での密を避けるために、学部を限定したり、暑さ寒さに配慮が必要な場面もあったが、概ね計画通りに実施できた。 ・各訓練終了後にアンケートをとり、避難時の誘導の仕方を振り返ったり、課題を洗い出したりすることができた。 ・訓練後のアンケートで頂いた改善策を、今年度中には部分的にしか改善できていないので、来年度更に検討していく必要がある。	施設設備の改善箇所すべての見直しは取り組めていないと感じる。抜き打ちで逃げてみるという体験がよかった。評価はAでもよかった。地震のリスクは高まっているので防災センター等と連携して訓練を行うのもよいと考えられる。 大切な分野であり次年度につながる取組ができていたと思う。	・避難訓練では、今年度初めて時間を抜き打ちで行った。反対の意見もあったが、教職員が不測の事態にも対応できるように、来年度も抜き打ちで行い、対応の訓練をする。 ・今年度は、課を超えて、合同でといった訓練ができなかったもので、来年度は、「不明者がいる」「負傷者がいる」といったような、もう少し緊迫性のある場面を想定して行うことを検討する。 ・消防署から頂いた助言の「煙体験」も検討する。 ・非常食や災害時の薬のことに関しては、持ち出しの困難さや協力が得られない家庭があると、いった意見があるので、検討する。
		②学校安全の日(毎月20日)に、教職員全体に周知して、各自が安全を意識して確認及び点検をするように、動機づけを図る。 年度末にアンケートを実施し、安全意識が高まったと回答する教職員が、8割を超えるようにする。	①-1 地震避難訓練(7/7) 日にちは知らせたが、時間は抜き打ちで行い、全学部、運動場に避難した。 非常食や医療的ケアの機械・用品類の持ち出しを呼びかけた。 事後にアンケートを実施し、課題を洗い出し、共通理解を図った。 ①-2 火災避難訓練(11/29) 日にちは知らせたが、時間は抜き打ちで行った。天候不良のため、小学部のみ体育館に避難した。 災害時用の薬の持ち出しを呼びかけた。 事後にアンケートを実施し、課題を洗い出し、共通理解を図った。 ①-3 洪水避難訓練(2/3) 日にち・時間ともに知らせて行った。 洪水は、気象予報により予測が可能なので、訓練当日も、避難指示の放送があるまでに、非常食を高いところに置き直すなどの浸水対策をとってもらったようにした。 1Fで授業をしている児童生徒、教職員は直ちに2Fのホールに避難した。 避難完了・安全確認後に、カプセルテントに入り、テントの中で寝たり着替えをしたりする体験学習を行った。 ※寄宿舎においても 火災避難訓練(5/16)、地震避難訓練(10/17)、洪水避難訓練(1/16)を、舎生がいる時間帯に行った。	①各避難訓練において 「日にちは周知するが時間は知らせずに行う」「非常時の持ち出し袋を携行する」など児童生徒の安全を確保するために、教職員が何をしなければいけないか考えて行動できるように、訓練が実効性のあるものにする。 事後には、課題を洗い出し、解決策を教職員全員で考えることで、危機管理の意識を高めるようにする。	②職員朝礼で毎朝閲覧する掲示板に、毎月20日に左記の内容をアップし、教職員への啓発を行った。 避難訓練後のアンケートでは、施設・設備の不具合の箇所を尋ねたり、非常食や災害時の薬の持ち出しのことにについて尋ねたりしたところ、多数の意見を聞くことができた。	・毎月「学校安全の日」には、安全点検や非常食の賞味期限のチェックを呼びかけることで、保護者から「賞味期限の切れたものを持ち帰るのをやめてほしい」という要望を、守れたように思う。 ・安全点検ではまだ十分ではないが、危険な箇所の提示が複数あり、教員自身に危険を予知して周囲を観察する意識ができてきたように思う。 ・不備と言われた箇所の改善は、今年度中にはまだできていない。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		②「学校安全の日(毎月20日)」に行くと決めて、以下のことを行う。 ・校内の施設・設備や遊具等の不具合箇所の有無の確認をする。 ・児童生徒が使用している車いすや歩行器、机やいす等の安全点検を行う。 ・非常時に持ち出す物や非常食の賞味期限の確認を行う。				

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
2 児童生徒に応じた教育活動の充実。ICT等を活用した情報教育の推進(情報課)	各学部で行う教育活動において個々の児童生徒の障がい特性に応じたパソコンやタブレット端末を使用した取り組みを推進する。	<p>① 教員同士で児童生徒に応じた有効な活用法についての情報交換を行ったり、個々の創意工夫を行ったりして、児童生徒の障がいの特性や実態に応じたICT機器(iPadやパソコン、プロジェクター等を始めとする表示装置、その他様々なICT装置)を活用した学習活動に取り組む。その結果、ICT機器を使った授業実践の取り組みを8割の教員が実施したと回答が得られることを目標とする。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 各教員は授業実践で担当する児童生徒の実態に応じた使用方法や活用の工夫などを考える。必要に応じて、教員同士意見交換をして適切な機器の使用を考える。また、校内で実施される研修会などにも参加をする。</p> <p>①-2 各教員はICT機器を活用した学習活動に取り組む。取り組んだ内容(各クラス1以上)については共有サーバー等に保存して全ての教員が閲覧できるようにし、情報を共有し、活用できるシステムを作る。</p> <p>①-3 全教員にICT機器等の活用実践の取り組みについてアンケートをとり集計をする。</p>	<p>① アンケートでは「ICT機器を使った授業実践ができましたか」の質問に対して、「よくできた」「できた」を合わせた割合が84・31%となり、評価指標の目標を達成できた。児童生徒の障がい特性を考慮した活用や、他の教員との活用に向けた意見交換についても「よくできた」「できた」を合わせた教員の割合があった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 GIGAスクール推進課からの研修案内を利用して、研修を2回行った。 教員同士関わる児童生徒にどのような活用が有効か話し合ったり、学部によっては研究日などを利用して、児童の実態把握を議論しつつICT機器の有効活用について話し合った。外部講師から機器についての研修を受けたり、児童の立場に立って実際にICT機器の使用体験を行ったりもした。</p> <p>①-2 GIGAスクール推進との関係もあり、児童生徒用GIGA端末を使用してメタモジラールームに活動実践を積極的にアップしてもらった。情報課員が先行して事例紹介をし、各クラスに最低1件は事例紹介を願った。</p> <p>①-3 年度終わりに各教員に対して本年度の取り組みについてアンケートを実施し、結果の集計と検討を行った。</p>	(評定) A (所見) ・今年度学内ではGIGAスクール構想の児童生徒用のiPadだけでなく、児童生徒の興味を惹く機器やアプリ等について積極的に教員同士話し合い共通の理解を進める姿があった。 ・活動計画①-2「クラスで最低1事例の紹介ができましたか」については 70% の実施にとどまった。どのクラスでもICT機器は使用しているので「特筆すべき使用方法では無いので」等と遠慮せずにもう少し積極的な事例紹介があれば、さらに良い結果だったに違いないと考えられる。 ・校内で実施された研修には 87.3% の教員が参加し、次年度ICT機器の活用に向けた肯定的な意見も 97.06% の教員からアンケート結果として得ることができ、次年度に向けて希望が持てる内容であった。	外部用のパソコンが足りない等ICT機器の充実には課題がある。高等部生徒の卒業後、SNS等の利用に不安がある。各教育段階で便利さとその怖さを児童生徒に伝えておきたい。使うのは人間です。	・今年度同様継続してICT機器の授業での活用事例を紹介する保存場所を提供して、気軽に真似てみようという雰囲気が必要。(強制や義務からでは積極的な姿勢や児童に有益な活用事例のアイデアは生まれない) ・予算の面で難しいかもしれないが、先生方がICT機器を使った教材の作成や工夫した使用が効率よくできるように児童生徒用パソコンを増やす等情報機器の整備を関係諸機関

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
3 保護者や関係機関等と連携した教育の推進・医療機関や専門家を活用した自立活動の推進(自立活動課)	医療機関や専門家の助言により、各教員の専門性を高め、安全で効果的な指導力の向上を推進する。	<p>① 社会人講師(PT・OT・ST)による指導や医療機関におけるリハビリ見学、整形外科医による自立活動指導検診について教員にアンケート調査を実施し、8割以上の教員から「児童生徒の指導の参考になった」「相談をして安心できた」等の回答を得る。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 社会人講師(PT・OT・ST)の指導やリハビリ見学、整形外科医による検診を計画・実施し、保護者との共通理解を図るとともに、課題や指導方法を明確にする。</p> <p>①-2 医療機関や専門家からの助言について記録を作成し、理解を深め、教員間の共通理解を図るため活用する。</p> <p>①-3 助言内容を参考に効果的な指導を自立活動の授業に取り入れる。</p> <p>①-4 アンケート調査を実施し、その効果や改善点を明らかにし、次年度にいかす。</p>	<p>① 社会人講師(PT・OT・ST)による指導や医療機関におけるリハビリ見学、整形外科医による自立活動指導検診を計画、周知して実施した。教員へのアンケート調査の結果では、自立活動指導検診では92%、社会人講師(PT・OT・ST)による指導では100%、医療機関におけるリハビリ見学では91.7%の肯定的な回答(「児童生徒の指導の参考になった」)であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 社会人講師(PT・OT・ST)の指導やリハビリ見学、整形外科医による検診を計画・実施し、保護者との共通理解を図るとともに、課題や指導方法を明らかにすることができた。</p> <p>①-2 医療機関や専門家からの助言について記録を作成し、理解を深めるとともに教員間の共通理解を図ることができた。</p> <p>①-3 助言内容を自立活動の授業に取り入れられたり参考にしたりして活用することができた。</p> <p>①-4 アンケート調査を実施し、その効果や改善点を明らかにした。次年度も専門家との連携を継続できるよう調整していきたい。</p>	(評定) B (所見) ・社会人講師(PT・OT・ST)による指導では、児童生徒の課題に気付いた教員が専門家からの指導を希望して指導に有効な助言を受けることができた。 ・社会人講師(PT・OT)による指導では、年間の指導時間が昨年度より減り、一人あたりの児童生徒の相談時間が短くなった。指導の希望時間が重なった時は、スケジュール調整を行ったり、動画相談を取り入れたりして指導を受けられるよう工夫し、希望者は全員受け入れることができた。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大影響により、医療機関におけるリハビリ見学では、人数制限や条件が設けられたため、その内容を周知して計画をした。大きなトラブルなく見学を実施することができた。 ・自立活動指導検診では、自立活動課の教員が進行、記録を務め、医師と担当教員のやりとりをサポートするとともに効率的に検診を進め助言を得ることができた。 ・アンケート調査では、具体的に記述できる項目を設け、自立活動の推進における改善点を明らかにすることができた。	外部の専門家を活用して児童生徒・保護者・教員が安心して学習に取り組んでいるのが成果である。各教員が担任する児童生徒の客観的な状況を外部の専門家の意見を知ることができていることがよかった。	・社会人講師(PT・OT・ST)による指導を希望していない教員にも指導後の効果を周知するとともに希望しやすい環境作りや、引き続き、希望する教員が指導を十分受けられるよう調整する必要がある。 ・社会人講師(PT・OT・ST)による指導や医療機関におけるリハビリ見学、整形外科医による自立活動指導検診における助言をいかした指導事例や保護者との活用事例等を周知し、各教員の理解を深め指導力の向上を推進していく必要がある。